神奈川県内の
高校等へ

高等学校等多文化理解推進事業【高校への教育支援】実施レポート2023

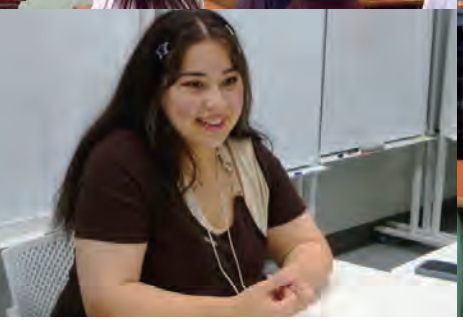
ちがいを豊かさに

～多文化共生社会“かながわ”に向けた人づくり・地域づくり～

多文化理解

国際教育

講師を**無料**で
派遣しました。



オンライン　対面　ハイブリッド

講演会やワークショップなど、国際的に活躍する講師・留学生を講師として派遣した授業の2023年度の実施レポートです。是非ご活用ください。

KIF
主　催　公益財団法人 かながわ国際交流財団
後　援　神奈川県教育委員会／一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

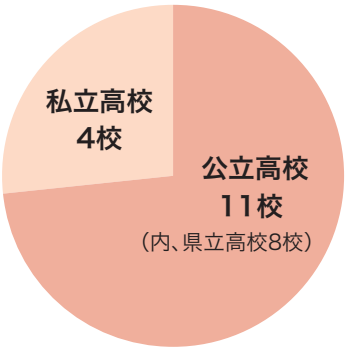
もくじ

2023（令和5）年度の実施レポート（概要） …… 3
個別報告　15校分（実施順） …… 4
① 学校法人シュタイナー学園
② 関東学院六浦中学校高等学校
③ 英理女子学院高等学校
④ 神奈川県立神奈川総合産業高等学校
⑤ 神奈川県立多摩高等学校
⑥ 横浜市立横浜商業高等学校
⑦ 神奈川県立七里ガ浜高等学校
⑧ 横浜清風高等学校
⑨ 神奈川県立松陽高等学校
⑩ 川崎市立橘高等学校
⑪ 神奈川県立横須賀大津高等学校
⑫ 神奈川県立川和高等学校
⑬ 神奈川県立麻生高等学校
⑭ 神奈川県立平塚中等教育学校
⑮ 横浜市立みなと総合高等学校
先生方のご感想 …… 34
これまでの実施校一覧 …… 36
これまでのゲストの方々の繋がりのある国・地域一覧 …… 37
講師紹介 …… 38
部活動等へのお手伝い …… 40

かながわ国際交流財団（KIF）は、
「世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川」を目指し、
グローバルな視野を持ち、共生社会をつくる人材の育成や、
県内における多文化共生の推進などを目的とした
事業を展開する神奈川県所管の公益法人です。
そして第３期中期計画（2021－2025年度）の基本目標として
「ちがいを豊かさに～多文化共生社会“かながわ”に向けた人づくり・地域づくり」を
掲げています。
一人でも多くの青少年が、
異なる国の文化や状況について関心を持ち「世界の入口」に立ち、
また、多様な文化や言語をもつ人たちと、より密接に関わり共生していけるよう、
各種プログラムの企画相談・講師派遣を通じて、
高等学校等の国際教育をサポートしています。

2023（令和5）年度の実施レポート

■実施件数



実施総数…15
派遣授業に出席した高校生の人数…2699人

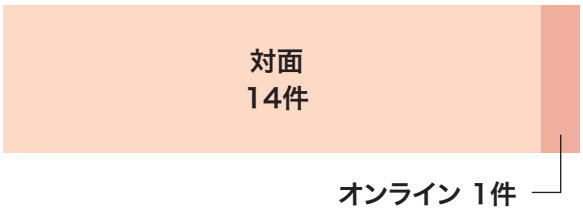
■派遣授業に出席した高校生の学年

(※1つの派遣授業で複数学年が出席する場合もあります)

希望者だけ、あるいは教員研修など様々な形で実施

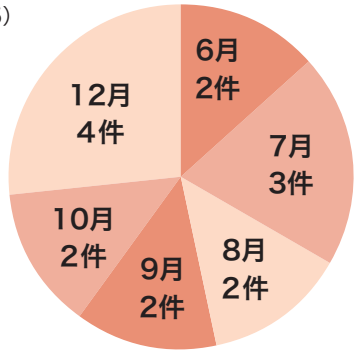
■講師・ゲストの方々の繋がりのある国・地域

■実施方法



■実施時期

2023年（令和5）



report 1

学校法人シュタイナー学園

貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える

実施日 2023（令和5）年6月5日（月）

実施方法 対面

対　象 2学年 1クラス／40名

講　師 赤阪むつみさん
（認定NPO法人難民支援協会
渉外チームマネージャー）

大学院修了後、日本国際ボランティアセンター（JVC）のラオスにて森林保全担当として村の森を守るための支援活動を行う。帰国後、日本でのシュタイナー教育活動と学校法人化に参加。2014年より現NPOで、難民のための定住支援や政策提言活動を行う。

ねらい

**国際社会における問題を本やオンラインではなく、
実際に体験した人から直接話を聞く機会をつくる**

赤阪さんが16歳の時に、ネパールへのスタディツアーに参加し、同年代の現地の子どもの状況を見て、日本との違いに気づいたことが、世界にもっと目を向けるきっかけとなりました。ミャンマーを始め今なお政治体制も日本と異なり自由が保障されていない国も多く、形式的には選挙を実施して民主化していると見せかけ、自国内では弾圧を続ける政権もあります。

そうしたなかで、生まれ育った地域を離れざるを得ない人は一定数おり、アメリカやヨーロッパの国々では国を離れざるを得ない難民（亡命者）を多数受け入れています。日本も難民条約に署名しているため本来はもっと多くの難民を受け入れることが求められます。ミャンマーやアフガニスタンなどから一定数受け入れていますが、申請者の9割がコンゴ、カメルーン、ナイジェリア、マリー共和国、コートジボワールなどのアフリカの国々です。

難民支援協会から政治家への難民受け入れ拡大のロビー活動も行っていますが、命がけで日本に逃れても難民認定される人が少なく、申請のプロセスも諸外国に比べて煩雑なのでもっと人道的な配慮をするべきです。

参加した生徒の感想

●最近ウクライナ戦争の方に目がいっていて、アフリカ、アジアの難民への支援が薄くなっているように感じました。

●難民の受け入れが日本はこんなに厳しいということについて驚きでした。私たち国民はこのようなことについて知らない人が多いので、メディアなどの力をもっと使って、その問題に向き合う人が増えるといいのではと感じました。

●むつみさんの話を聞き、「難民」という言葉が少し自分事となったような気がします。でも私は環境問題でも社会問題でも話を聞いただけで終わってしまい、その先を考えられていません。自分事としていかに考えられるかどうかが大切だと思いました。

●日本がどのように難民を受け入れているのか、全く知らなかったのでとても勉強になりました。まだまだ多くの課題が残されていることに気が付けた良い機会でした。

report 2

関東学院六浦中学校高等学校

貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える

実施日 2023（令和5）年6月28日（水）

実施方法 対面

対　象 3学年／23名

講　師 漆原比呂志さん
（一般社団法人JLMM事務局長／
NPO法人アルペなんみんセンター・地域連携コーディネーター）

神奈川県生まれ。国際協力NGOのJLMMからカンボジアとベトナムに6年間派遣され、現在は事務局長として日本からの支援を行う。2011年から10年間、カトリック東京ボランティアセンターにて東日本大震災の被災者支援にも関わり、現在に至る。

ねらい

**日本と世界を多角的な視座で俯瞰できること、
多面的で深い知識を得ることを目的とする**

漆原さんが【難民の友に。難民とともに。】というテーマで、まず難民とはなにかを語り、それから、ご自身の経験を交えながら、世界中の難民だけでなく日本国内の難民についてもお話しされ、生徒たちのみならず、先生たちも積極的に質問していました。

認定率の高いドイツやカナダと異なり、日本では“難民として認められるのは1％以下”、言い換えれば“99％は認定されない”とのことです。認定許可が降りるまで何年もかかり、入国管理局に収容され、長期間自由を失い、ようやく仮放免を得たとしても、「今日、泊まる場所がない」という現実を突きつけられます。

そうした過酷な状況にある難民を支援している「アルペなんみんセンター」ではシェルターの提供のみならず、日本語学習や子どもの教育支援、難民申請手続支援なども行っています。それから、より多くの人々に難民を知ってもらうため、難民が地域とつながるパイプ役も担っています。例えば、難民と出会える場づくりや難民について伝える活動を行っています。しかし、このような支援があっても、就労禁止や社会保障無しなどの制限がある仮放免の状態では、難民が人間らしい生活を送れないという課題があります。国の難民政策の見直しや地域の人たちとの交流を通して、難民を歓迎できる社会づくりが求められています。

参加した生徒の感想

●仮放免と在留資格、難民認定など似たようで違う難しいところがクリアになった。身近なところでこのような活動があることを知ってより興味を持った。このような活動のほとんどが寄付などによって成り立っていることを知って、日本人の温かさを感じたとともに日本の政府の難民に対する冷たさも同時に感じた。

●難民の方々と関わっている人の話を聞くことによってリアルな視点で彼らに対し、考えることができた。

●今授業の一環で模擬国連をやっていて、それぞれに国が与えられるのですが、私はアイルランド担当になり、アイルランドの難民情勢をたくさん調べています。けれど今日、まずは自国である日本の難民受け入れについて詳しく知ることができて、とてもよかったです。アルペがある鎌倉によく行くので、ボランティアで訪れたいと思いました。

●今日の講演を通して、改めて日本は難民認定制度を見直す必要があると感じた。日本で難民が受け入れられたとしても、面倒見が悪い点も問題であると思う。逃れた先の国で路上生活をしている事実を知り、ものすごく悲惨な気持ちになった。

report 3

英理女子学院高等学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023（令和5）年7月16日（日）

実施方法 対面

対　象 1クラス／100名

講　師 エベレストインターナショナルスクールに在学中の高校生6名

- Eve Thapaさん
- Sauravi Thapaさん
- Nisha Niureさん
- Sarthak Payaniさん
- Roshan Thapaさん
- Surakshya Sapkotaさん

ねらい

国際交流

主催校の英理女子学院高校とエベレストインターナショナルスクールに加えて、他校からの参加としてみなと総合高校、鎌倉高校、相模原高校、神奈川総合産業高校、柏陽高校、横須賀高校の生徒も参加しました。ワールドカフェ形式で開催されましたが、事前学習として、配布された問題に対して、サンプル回答も参考にしつつ回答を、英語で考えており、ディスカッションする素材も準備していました。

家族、勉強、友情、趣味、将来の夢（職業）、グローバル化、外国語、人生、国際関係、リーダーシップなどのテーマが設けられており、家族や勉強など身近な話題から、少しずつ社会、そして世界との関わり、現状や課題などを英語で考え、発言するよい機会となりました。インターナショナルスクールの生徒が英語に慣れていることから議論をリードするなどして積極的に役割を果たしていました。

参加した生徒の感想

●グループ発表会などで内容の理解も進んだし、ディスカッション、キーノートも大変ためになったが、何よりも同年代の様々なバックグラウンドの方と一緒に活動し、友達になれてよかった。

report 4

神奈川県立神奈川総合産業高等学校

教員研修

実施日 2023（令和5）年7月18日（火）

実施方法 対面

対　象 3学年の教員30名

講　師 武 一美さん
（認定NPO法人多文化共生
教育ネットワークかながわ理事長）

多文化共生教育ネットワークかながわ（ME-net）は、「外国につながる子どもたち」の教育を支援し，「外国につながる子どもたち」と周囲の子どもたちが共に生きられる社会を実現するという理念のもと，神奈川県を拠点に活動している団体です。

ねらい

外国につながる生徒に対する教員の理解を深める

最初に「外国につながる生徒」を支援する認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ（通称：ME-net）が行っている様々な高校生支援活動を紹介しました。

コロナの影響で、在留外国人が減りましたが、全体としては伸びる傾向であり、外国人が増えれば、当然それに比例して、その子どもの数も増えていきます。講師自らの日本語教師としての活動や外国につながる子どもと関わってきたこれまでの経験を踏まえながら、子どもたちの背景と支援について説明しました。

具体的には、二つ以上の言語と文化で育つ分、その背景は豊かではあるが、子ども本人にとっては自分のものとするには時間がかかり、高校の勉強習得についても同様に、3年間で学びが終わらない場合があること。ただ大学や専門学校に入って伸びる可能性もあり、そういった将来のことを見越して、焦らず、生徒のペースに合わせてゆっくりで進んでいく必要があることです。

外国につながる生徒たちは例えば、日本語学習やアイデンティティ、生活面の問題など様々な悩みを抱えており、また本来の能力が発揮できずにいることもあるので、周りにいる大人たちが子どもたちを、さまざまなチャンスのあるところに繋げるべきとお話しをされて、講演を締めくくりました。

参加した教員の感想

●支援の方法など、勉強になりました。

●大変参考になる内容でした。

●通訳依頼などでME-netさんにはお世話になっていましたが、その設立の歴史や背景などを知ることができて勉強になりました。また、外国につながる生徒の支援については、決まった方法がなく難しく感じていましたが、お話を聞いていると、それぞれの生徒について抱えている事情や育ってきた背景などが異なるのだから、難しいことはある意味仕方がないとも思えました。だからこそ、他校や外部団体も含め、様々な場所とのつながりを構築して、みんなで考えながら支援していく必要があると思いました。

report 5

神奈川県立多摩高等学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023（令和5）年7月20日（木）

実施方法 対面

対　象 1～3学年希望者／21名
部活動の一環として開催
（Tama International Club）

講　師 横浜デザイン学院に在学中の留学生5名
- Akiさん（アメリカ）
- BOCANEGRA GARBAY DAVID GONZALOさん（ペルー）
- MIRANDA FREITAS CARLOS ALBERTOさん（ポルトガル）
- HODLER BELINDA ZODINIさん（スイス）
- VERONIQUE DELLA VALLEさん（カナダ）

ねらい

多文化共生、異文化交流を主目的としたグループワークを行う

まず交流に先立ち、高校の担当教員の案内のもと、留学生たちが図書室や美術室、書道室など見学しました。日本の高校生が勉強していることや日本の文化にとても興味を持っており、特に図書室にある日本のマンガに目を奪われていました。

その後、生徒から大きな拍手で歓迎されながら教室に入りました。司会を担当する生徒たちの挨拶に引き続き、留学生の自己紹介、グループに分かれて各テーマについて交流しました。最初から最後まで、笑い声が絶えず、司会の声が聞こえないほど大盛り上がったため、担当の先生が当初予定していた発表の時間を使って、代わりに留学生がローテーションで回って、前のグループで話した内容をもとに、新たなグループで生徒と留学生が話し合うことで、コミュニケーションの時間をより多く確保しました。もちろん、最初緊張していた生徒もいましたが、会話が進むにつれ、だんだん打ち解けて会話も弾んでいきました。

グローバル化がますます進む中、英語も使えるようになれば、多様なバックグラウンドの人々とコミュニケーションもでき、異文化理解も進むことで、より豊かな人生になることでしょう。

参加した生徒の感想

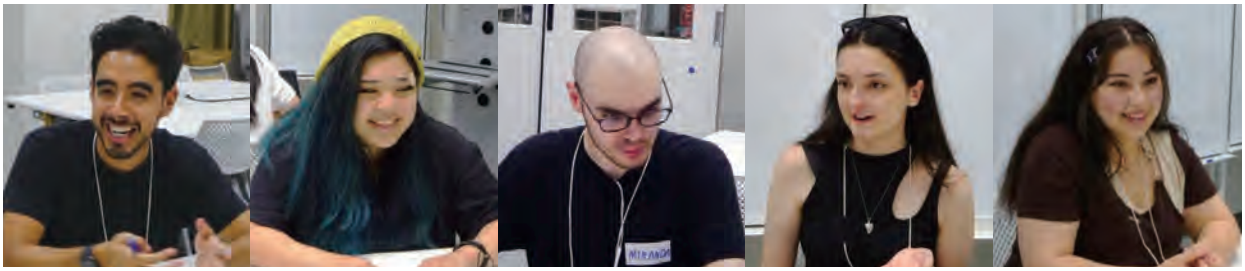
●国際交流をするうえで、英語力があるだけでなく、どれだけ相手を理解しようとするかが大切だと思った。

●「外国人だから」と緊張せずに、普通に人と話すように、楽しく会話をすれば、おのずと英語でも会話が進むイメージができる。そして、そっちのほうがお互い楽しい。

●外国の文化について知れたし、さらに、コミュニケーションをとることに対する不安もなくなったので、とても充実した。

●スライドをつくることを目的とせず、目を見てコミュニケーションを取るということを目的として話し合うことで、より活発な話し合いができたと感じました。伝統的な文化や特産品は大きく異なる一方で、最近の流行や有名なものについては似ているものが多くあるということに気づくことができました。多少言葉が分からなかったとしても、理解しようとする姿勢を伝えたいという思いがあれば、言葉を言いかえたり、ジェスチャーをするなどしてコミュニケーションをとることができることを身をもって体験できてうれしかったです。

●今日の国際交流で、自分の英会話の能力を楽しむことで向上できたと思ったので、次も機会があれば是非積極的に参加していこうと思った。



report 6

横浜市立横浜商業高等学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023（令和5）年8月30日（水）

実施方法 対面

対　象 1クラス／20名

講　師 アーツカレッジヨコハマに在学中の留学生5名

- サンドゥニ ニメーシャーさん（スリランカ）
- ウィハンギ カウィーシャーさん（スリランカ）
- タールカー ディルキさん（スリランカ）
- ダルシャニー ウィラッコディさん（スリランカ）
- ライ アナンタさん（ネパール）

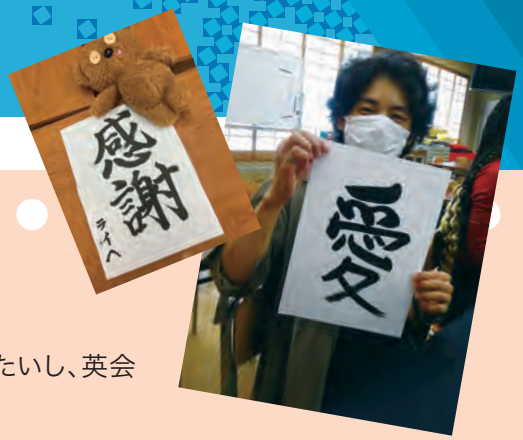
ねらい

頭でなく心で文化を感じ、理解を促進する

留学生と交流する、という45分授業において、自己紹介から始まり、5グループに分かれて交流という構成で実施しました。グループごとの交流内容を全て生徒が自ら考えて決めました。2グループは主に言葉でコミュニケーションを交わしました。他の2グループはけん玉や折り紙、四目並べなど用意して、留学生に日本の文化を体験してもらいながら交流しました。また別のグループは書道室で書道を書くことを通じ、英会話で文化交流を行いました。

生徒たちがたくさんの日本のお菓子を用意して、美味しくお菓子を食べながら、終始笑い声が絶えませんでした。けん玉を体験した留学生が上手に玉を剣先に載せた時は、歓声もあがるなど、日本文化に触れる良い機会となりました。また留学生が自国の文化などを紹介する際には、携帯で写真を見せたり、紙に描いたりなどしてより分かりやすく伝わるように話しました。

授業が終わっても、交流し続けたグループもあり、用意したお菓子やおもちゃも使いながら、“おもてなし”の気持ちが留学生たちに十分伝わったことでしょう。書道体験では、生徒たちが最初に留学生に教えた漢字が“愛”でした。そして最後に、書道を体験した留学生に”感謝”という二文字を書いて贈りました。この二つの言葉は文化交流においても大切なことではないでしょうか。



参加した生徒の感想

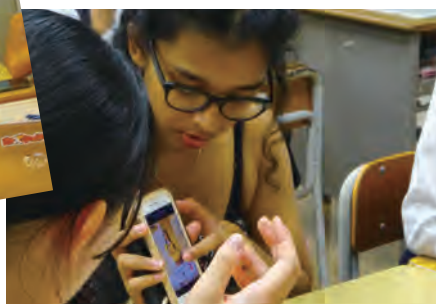
●スリランカについて知れて楽しかった！！今度行ってみたいし、英会話できたのが実力試しにもなったし良かった！

●他文化にふれることができたのでたのしかった。スリランカについて何もしらなかったが、今回のクラスでたくさんのことを知れたのでよかった。

●日本の良いところ（海外と比べて）を知ることができて、改めて日本は良い国だと実感できた。

●文化の違いや、お互いについて知れた。また一緒に遊べて楽しかったです。

●It was interesting to learn about another culture.



report 7

神奈川県立七里ガ浜高等学校

多文化社会を生きる

実施日 2023（令和5）年8月30日（水）

実施方法 対面

対　象 24名（1・2学年の姉妹校交流プログラム参加者）

講　師 崔 英善（チェ ヨンソン）さん
（韓国語講師、さがみはら国際交流ラウンジ副代表）

2002年に来日。慶應義塾大学大学院修士課程修了。神奈川県立相模原総合高等学校等の韓国語講師。バイリンガル人材ネットワーク代表。新宿自治創造研究所研究員や藤沢市多文化推進職員等歴任。

ねらい

**韓国の姉妹校との交流の事前学習として
韓国語と韓国文化について講義を受け、理解を深める**

韓国にある姉妹校交流の準備として、講師にチェさんを招いて、韓国語や韓国文化を学ぶ事前学習を行いました。韓国語による自己紹介、韓国の生活文化、高校生の過ごし方などを学びましたが、自己紹介については、チェさんに続いて、積極的に挨拶などの発声をしたり、2人1組になって練習を行う生徒の姿が見られました。言語は繰り返し発言することが大事で、口に出して話すことで脳に蓄積されていく、というチェさん自らの経験も踏まえたアドバイスもありました。

姉妹校の規模は600人程度で、韓国では大学入試が人生を左右するほど大切なので朝から晩まで勉強しているとのこと。また交流するのは日本語学科の生徒さんなので、日本語は上手だし話好き、だそうです。ちなみに一般的な韓国の高校の様子として紹介されたのは、部活動はあるけれども勉強重視であり、韓国の生徒にとっては朝練の風景は興味を引くかもしれない、ということや、先生に呼びかける際には「先生様」と普通は「様」をつけることなどの話もありました。それから韓国の人たちはあまり気軽に「ごめんなさい」は言わないそうですが、それは言われた方が「水くさい」と受け取られる傾向があるからだそうです。

最後に「文化が違うときにどのように受け止めるか」ということもお話されました。例えば、食事について、日本ではお茶碗は手に持って食べるが、韓国ではテーブルに置いたままでスプーンを使うとのこと。これは、韓国ではご飯をスープに入れて食べる習慣があり、体を温めるスープなどの熱いメニューが多いことによるものだそうです。文化はその土地独自の気候の中で生き延びていく、その地域で気持ち良く暮らすための作法が根付↗

いたものなので、文化の違いをどのように受け止めるか、ということも大切であり、それが異文化コミュニケーションだということをお話され、チェさんご自身も日本に来た当初は、日本の文化になかなか慣れなかったけれども、今は多文化共生の時代でもあり、違いを楽しんでいる、とのことでした。

参加した生徒の感想

●韓国と日本の文化の違いについて知れてとても面白かった。そういった違いをストレスとして感じるのではなく多文化共生と思い交流を楽しみたいです。

●ドラマなどを見ていて普段から少し聞いたことがある言葉だったか、実際に発音してみると、とても難しかった。

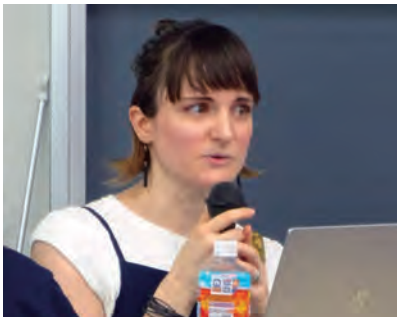
●韓国と日本では食事はもちろん日常生活のさまざまな場面で文化の違いを感じることが多いと思いますが、その文化の違いをどう受けとめるかによって異文化の交流を楽しむことができるのだと強く思いました。

●韓国の情報を日本と関連させて教えてくださったのでとても分かりやすかったです。発音や韓国語について詳しく聞けたのでよかったです。

report 8

横浜清風高等学校

グローバルな視野で活躍する人と出会う・進路を考えきっかけつくる



実施日 2023(令和5)年9月16日(土)

実施方法 対面

対　象 1～2学年希望者 2クラス程度／約60名

講　師 ビオリーナ ニコローバさん
(マーケティングプランナー、異文化理解講師)

ヨーロッパ数か国に住んだ経験があり7か国語を操る。15歳で来日、高校と大学を卒業。日本の大手メーカーで8年間マーケティングに従事し、2019年に独立。現在は日本全国の地場産業マーケティングプランナーとして活躍中。

ねらい

様々な場所で多くの人と関わることの意義や楽しさ、異文化理解の大切さなどを伝える

ヨーロッパでは多文化が共存している環境は日常的なものであり、しかも講師が生まれたブルガリアは、西洋とアジアの文化が交差する地域であり、多様性を受け入れる土壌があるので、相手の文化を大切にしています。多くの文化を尊重し、互いに共生していくためのコミュニケーションとして、「観察する、考える、寄り添う」ことが大切になります。

それぞれの人が多様なバックグラウンドを持っており、そうした一人ひとりと接する際には、一旦固定観念を脇において、相手を観察することが大切です。なぜなら、外国人とはいえ、必ず英語が話せるわけではなく、また陽気な性格の人もいれば、シャイな人もいます。多様性が豊かであることは、社会にとって個人にとっても障害になるものではなく、考え方が広がるきっかけとなります。

そして、人との信頼関係を丁寧に築いて、五感を駆使しながら多様性を受け入れる人になってほしい、というメッセージが生徒たちに贈られました。

参加した生徒の感想

●私は人と関わることが好きで色々な人と話をするけど、話した瞬間にこの人合わないなとか決めつけてしまうので、一歩引いてみて考えるようにしたいと思います。

●あまり海外の方から見た日本人の感じ方だったり、意見を聞く機会がないので、今日はとても良い経験になりました。わたしも「外国の方だから、すごくフレンドリーなんだろうな」と思ったことがあったので、本当に申し訳なかったなと思いました。なので、今回言われたように1回踏みとどまって考えて観察することを大切にして行きたいなと思いました。

●意識一つで人の考え方や見方が変わってくることに気づきました。これから英語を習う中で、自分がしたいことに合わせて学びたい時思いました。

●経験から、あるものだとか、観察してあるものだとか、たくさんの方向から自分のものになることをなんでも挑戦していきたい。自分の思っていることとかちゃんと発信しないと相手に伝わらないから、伝えていきたいです。

●日本のデメリットである部分でも多様的に見ることによってメリットに変わるということを具体例などでわかりやすかった。

report 9

神奈川県立松陽高等学校

多文化社会を生きる

実施日 2023（令和5）9月25日（月）

実施方法 対面

対　象 1～2学年 15クラス／595名

講　師 星野ルネさん
（漫画家／タレント／放送作家）

アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心にメディア方面でも個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見いだし、幅広い層を対象とした講演多数。

ねらい

生徒たちが普段あまり触れることのない多文化に触れる機会を作る

「アフリカ少年と考える多文化社会の日本」と題して、講師ご自身が描かれた漫画を通して日本とカメルーンの2つの文化のあいだで経験したさまざまな出来事や、観察して感じたことをお話しされました。お話の合い間で質問を投げかけて、生徒たちも積極的に答えていました。

カメルーンにルーツをもち、4歳の頃に来日し、周りからさまざまなまなざしを受けながら日本で育ったことによって、自分の中で葛藤し、成長したそうです。

そうした経験から、“あまり知らない相手の事を思いやったり優しくするのは難しいので、直接話したり、遊んだりして、初めて身近に感じることができる”と、多文化社会の中で多様なバックグラウンドの人たちと接する方法を示しました。また、イメージ（先入観）について、アフリカ人であるとしても必ずしも足が速いわけではないという実例を挙げながら、「世界は人々のイメージの集合でできていて、そのイメージは一部の目立つ人々によって作られることがあるので、イメージと実際のものが一致しない時もある」というお話もされました。

ルネさんご自身が漫画家であり、漫画を使いながらのお話はとても興味深く、生徒のみならず、先生方も熱心に耳を傾けていました。

参加した生徒の感想

●アフリカでの暮らしについて、漫画を交えて学べてとても楽しかったし、勉強にもなりました。

●ただ生まれた場所や環境がちがうだけで普通の人とは違った生活になるのはあまり良くないことだし、それによってまた区別するのも良くないと改めて感じる機会になりました。

●外国人と話す機会や、遊ぶ機会が今まであまりなかったので、貴重な体験になりました！

●もっと、多文化共生をするべきだと思った。

●カメルーンと日本を行き来することで学んだ異文化のことについての話を聞くことで最近外国の方が増える中でどのような考え方、接し方をすればお互いが嫌な気持ちにならなくて済むのかということを考える必要があるということを気付きました。

●今日の講演では日本の学校での体験談の話が多く場面をイメージしやすく面白いと感じた。

●「異文化を受け入れ難いのはその国に生まれたからではなく、その国で育ったから」という言葉が印象に残っており、こちらから「分かり合えない」と相手を理解することを諦めないで、違う文化として受け入れられたら本当の意味で多様性を知ることができると思った。

report 10

川崎市立橘高等学校

グローバルな視野で活躍する人と出会う・進路を考えるきっかけをつくる

実施日 2023（令和5）年10月12日（木）

実施方法 対面

対　象 国際科2年1クラス／39名

講　師 清水将吾さん
（特定非営利活動法人 こども哲学 おとな哲学 アーダコーダ 理事）

ファシリテーター 鳥羽瀬有里さん（NPO法人こども哲学おとな哲学アーダコーダ 理事）
加藤麟さん（中央大学大学院修士課程2年）
大塚拓海さん（明治大学大学院修士課程2年、アーダコーダ インターン）

ねらい

これまで学び考えてきたグローバルな課題と多文化共生について、自分の心との対話・他者との対話を通して深く考えこれからの世界を考える機会とする

“難しい”、“堅苦しい”という哲学へのイメージを抱いている生徒が多いでしょう。実は【ゆっくり考える→何でも話してみる→どんなことでもよく聴いてみる→考えが変わっていく】と、哲学対話のシンプルさを講師の清水さんが最初に語りました。　その後、簡単なゲームを行い、生徒たちの緊張が少しずつほぐれていく中、哲学対話の問い（テーマ）を募集しました。「若干引かれる女の子に愛を伝えるには」、「五十音がある理由」など6つの生徒が話したい問いが上がり、投票で「自慢されると、なぜむかつくのか」という問いに決めました。

清水さんを含めて、4名のファシリテーターと生徒たちが4グループに分かれて、約35分の哲学対話が始まり、最後は再び全体で輪になり、各グループで話し合われたことを共有しました。発言者は、問いに対して、ゆっくり考えて、自分のペースで、自分の言葉で話し、他の人は、静かに耳を傾けています。誰もが時間を忘れたかのように与えられた問いにしっかりと向き合って、話し合い“そういう考え方もあるんだ”と思考の多様性に気づき、喜んでいました。

今回の哲学対話を通じて、生徒一人ひとりの中で、自己と自己、自己と他者、自己と世界の関係に対しての理解に変化が生まれたのではないでしょうか。多様性を受け入れ、違いが豊かさになることで、新たな知恵も生まれてくることでしょう。

参加した生徒の感想

●普段、無意識に感じている感情を改めて考えてみることが面白かった。今後何かを悩んだりした時には自分の頭でじっくり、ゆっくり考えてみたら解決する一つの手立てになると感じた。

●話し合うことがほとんどだったので、楽しみながら学ぶことができました。

●新しい発見がたくさんあって面白かったです。

●日頃、疑問に思っていることや気になったことについてゆっくり考える機会がなくて、そのままにしている事も多かったが、それについて考えることができてよかったと思います。

●哲学とは身近にあるものだと気づきました。答えが全然見つかりませんでしたが、話し合いは楽しかったです。

●いつもはあまり発言をするタイプではないが、ファシリテーターの方が話しやすい環境を作ってくれて自分から発言することができました。ありがとうございました。

report 11

神奈川県立横須賀大津高等学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023（令和5）年10月25日（水）

実施方法 対面

対　象 3学年 2クラス／13名

講　師 横浜デザイン学院に在学中の留学生16名

- BUTTA TUANGPORさん（タイ）
- RATTANAPHORN THIRAPORさん（タイ）
- POLMUANGSRI KANYAPHAKさん（タイ）
- SU LAE YEE WINさん（ミャンマー）
- ZADES ALEXANDER IAN MORPHEUSさん（アメリカ）
- ARRINGTON ZELLA MICHELLEさん（アメリカ）
- MORA ROJAS JULIO CESARさん（コロンビア）
- AGOSTI ERIKさん（イタリア）
- AL-BADRI ETIENNEさん（ドイツ）
- HARNWANICHKUL WEERAPATさん（タイ）
- PAOPANLERD PLOYJAPLOENさん（タイ）
- WIN LIN TUNさん（ミャンマー）
- SU LAE PHYUさん（ミャンマー）
- CARAWAY ISAAC LARUEさん（アメリカ）
- 陳 星羽(CHEN HSINGYU)さん（台湾）
- NIETO VEGA MARIELさん（メキシコ）

ねらい

既習事項を踏まえ、対面における実践的な表現力とコミュニケーション能力を養う

まず高校生と留学生がペアになり、英語で自己紹介などフリートークを行いました。全員と話せるように途中で生徒が移動してローテーションしながら趣味や関心のあること等をお互いに質問しあいながら交流を深めていきました。

続いて、黒板に投影されたテーマに沿って交流する、という少し難易度が上がったワークをしましたが、生徒に身近な話題だったので、楽しく会話をして高校生活でやり残したくないことといったテーマでは「留学したい」「部活を頑張りたい」などの意見が出ました。また実施日がもうすぐハロウィン、という時期でもあったので各国のハロウィンの祝い方についても発表しあいましたが、アメリカやヨーロッパでは日本ともなじみがあるやり方だった一方で、ミャンマーやスリランカでは宗教行事とされ、あまり祝わないことに驚く生徒もいました。

参加した生徒の感想

●外国の人と話すのはとても楽しいなと思いました。これからもたくさんの人とコミュニケーションを取りたいです。

●今回の交流会は自分にとってまともに外国人と英語で話すのは初めてで、最初はかなり緊張していていました。しかし案外自分の英語が伝わることに気づき、会話が成立することに喜びや楽しさを感じることができました。ここで得られた経験はとても貴重なものであり、私の英語に自信をつけてくれる機会でした。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

●第一言語の違いによって、いわゆる日本語英語だけでなくさまざまな英語のなまりがあることを身をもって知った。冷静な時には出てくる文章も、あまり慣れていない場で焦って出てこなくなってしまった。もっと、海外の人と話す経験を積んで、堂々と話したい。

report 12

神奈川県立川和高等学校

多文化社会を生きる

実施日 2023（令和5）年12月12日（火）

実施方法 対面

対　象 1～2学年 17クラス／約680人

講　師 ジギャン クマル タパさん
（かながわ国際交流財団職員／
駐日ネパール大使公式通訳）

1979年ネパール生まれ。2000年に留学のため来日。2009年横浜国立大学大学院博士課程（国際開発）単位取得後、現職。神奈川県地方創生推進会議の委員として政策提言にも携わる他、エベレストインターナショナルスクール評議員、海外在住ネパール人協会アドバイザー。異文化理解や国際協力をテーマにJICA、ユニセフや多数の大学等での講演や新聞、ラジオやテレビにも多数出演

ねらい

日本の中にある国際性に気付き、多様な文化を持つ人々とどのように共生していくか等を考える

亜熱帯のジャングルからヒマラヤ山脈まで標高差8千メートルの「ネパール」は、多様な民族や異なる文化を持つ人々が共存しています。講演の前半では異なる文化を理解するには、相手に自分を知ってもらい、自分も相手を知ろうとする努力が大切というお話しがありました。

近年、日本にネパールを始め多くの国から留学や就労のために外国人が多数来ており、共生していくには相互理解が大切であると、講師の経験を織り交ぜながらのお話でした。またネパールと日本の共通点や相違点、ネパール人が日本を目指す理由、ネパールの社会経済状況といった全般的な話に加え、講師自らが取り組んでいる、日本との関わりの中でネパールの教育環境を改善する「たまごプロジェクト」の話など生徒たちにとって身近な存在である学校についても紹介しました。さまざまなトピックを挙げながら、日本と異なる状況を伝えることで、翻って自分たちの生活や環境を見つめ直す機会になりました。

参加した生徒の感想

●多文化共生やネパールとの関わり、文化や宗教、生活についてなど日本の中ではなかなか知ることができないようなことを知る機会になりとても勉強になりました。また、このような講演会があったら参加して、自分の視野を広げたりしていきたいと思いました。

●ジギャンさんのお話が面白くて楽しかったのと、自分とは違った視点の日本の文化、ネパールの文化を知れて興味深かったです。

●外国の言葉を学ぶことには大きな意味があると気づきました。例えば、色々な考えに触れることができ、困っている人を助けるきっかけにもなるということに納得しました。

●多文化共生には相手のことを理解しようとお互いが歩み寄ることが大切だということに改めて気付かされました。

report 13

神奈川県立麻生高等学校

貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える

実施日 2023（令和5）年12月14日（木）

実施方法 オンライン

対　象 1～3学年／約960名

講　師 エソダ バスネットさん
（翻訳・通訳者／国際理解講師）

ネパール出身。留学生として2005年に来日。横浜国立大学・大学院で国際協力分野の博士課程単位を取得し、その後、国際理解、ジェンダー、キャリア教育や多文化共生などをテーマに高校や大学などにおいて日本語や英語で講演を多数行っている。

ねらい

本校の特色の1つである、国際理解教育の一環として実施する

ネパールをめぐる社会的な状況について講師自らの活動も織り交ぜながら、お話しいただきました。ネパールは、世界最高峰エベレストが聳え立って、標高差（60～8848m）の激しい地形に代表される自然豊かな土地に多数の民族が生活している、多様性に富んだ国です。ただ、自然に恵まれている一方で、発展途上国でもあります。文房具がない、教室が足りない、学校が足りない上に、両親の手伝いをするために学校に通うことができない子どもたちもいる、という貧困を背景にした社会的な状況にあります。

1996から2006年まで11年も続いたネパール内戦が若者を強制に参戦させ、教育の機会を奪い、かつ、内戦により、インフラ設備が破壊され、大きな被害が生じ、貧困がさらに深刻化したという歴史的な背景があります。そしてお金稼ぎのため、命の危険があるにも関わらず、ネパール人が世界各国の兵士になります。また、ネパールはロシア・ウクライナ戦争の影響で食品の輸入が大幅減少し、物価が急騰しています。生活がますます苦しくなりました。貧困脱出には教育が重要です。エソダさんは小学校を支援する様々な活動に力を入れており、その中で「たまごプロジェクト」やトイレ建設というお話がありました。

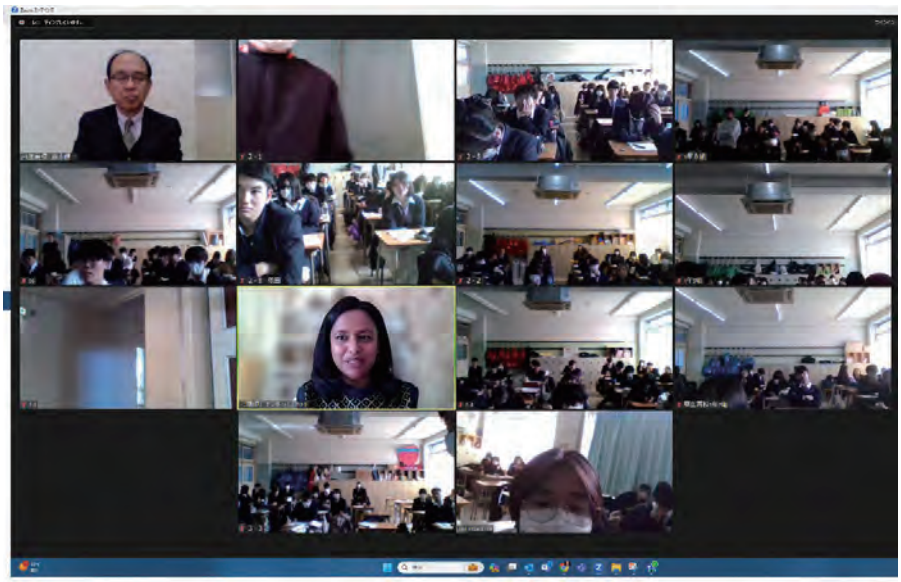
日本は先進国として、比較的に経済が豊かで社会も安定しています。今回のエソダさんのお話で、生徒たちの中で世界の貧困や戦争についての認識がさらに深まり、今の生活、今の平和を大切にしていくようになるでしょう。

参加した生徒の感想

●エソダさんがとても優しく明るい方で、聞き疲れませんでした。日本語を学んだのが1年半と仰っていたのに、ものすごく上手に喋っていてすごいなと思いました。ネパールでは日本のように学校に行くことは当たり前のことではないということを知って、自分も学費は親に払って貰っているので、改めて学校に行けていることはありがたいことだなと思いました。

●今日の講演会の話を聞いて他人ごととは思わずに一人ひとりが何をできるか考えていくことが大切だと思いました。先進国の人々が発展途上国の人々を支えるために私たちは発展途上国の現状を知ったり、現状を知り自分に何ができるか考えたりとしていくことだと思いました。

●同じ教室の中で異文化の人が当たり前って言うところがすごいと思います。相手の意見を尊重するという意識があるからなのかなと考えました。貧困により様々な問題が起きているというのが現実だと知りました。また、少しでも多くの子供が学校に来れるように小さいことから工夫をしているところがすごいなと思います。



report 14

神奈川県立平塚中等教育学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023(令和5)年12月15日(金)

実施方法 対面

対　象 2学年 4クラス／84名

講　師 柏木実業専門学校に在学中の留学生3名

●サヒ タペンドラ バハドゥルさん(ネパール)　●ボホラ モハン プラサドさん(ネパール)
●ジシ アディカリ ビナさん(ネパール)

ねらい

異文化理解、国際交流、英語を話す場を提供する

2クラス×2コマで、合計4クラスで留学生との交流会が行われました。留学生による自己紹介に続き、クイズ形式で自国の文化や衣食住の生活全般について、生徒とコミュニケーションをとり、正解となった際にはクラス全体で盛り上がりました。

その後は生徒の代表が日本の文化を留学生にプレゼンテーションしましたが、特に祭りの御神輿という日本の文化に関して、ネパールでもとても似た祭りがあり、留学生のみなさんも文化の共通点に気づき、とても喜んでいました。英語で交流している中、通じない時もありましたが、生徒が先生に確認しながら、恐れず挑戦しようと話している姿が印象的でした。これは姿勢は異文化交流においてとても重要なのではないでしょうか。留学生にとっても、最初は緊張していましたが、徐々にリラックスしていき、日本文化についての楽しい学びの時間となりました。

参加した生徒の感想

●同じ英語でも、話す人や土地によって大きく変化があることがあってとても面白かった。

●相手の国についてよく知れてよかった。日本と似ているところや違うところを話してくれて、内容的にも分かりやすくなっていた。話すスピードに追い付けない時もあったが、なんとなく意図が伝わってきた。またこのような機会があればうれしい。

●英語は多くの国で使われている言語で、習得することは大切なことだなと思いました。留学生の国について知ることができて楽しかったです。また、日本の他国からの評価もよくわかり勉強になりました。

●普段なかなか知ることのできない国の文化についてクイズ形式で知ることができて面白かったです。また、現地の人に直接来ていただくことで、スピードの早い英会話に対するリスニング力が鍛えられました。

report 15

横浜市立みなと総合高等学校

留学生との交流・グループワーク

実施日 2023（令和5）年12月25日（月）

実施方法 対面

対　象 希望者1クラス／10名（全学年度）

講　師 横浜デザイン学院に在学中の留学生4名

- PERFILEVA ANASTASIIAさん（ロシア）
- LAMA GANESHさん（ネパール）
- MIRANDA FREITAS CARLOS ALBERTOさん（ポルトガル）
- HTET MYAT AUNGさん（ミャンマー）

ねらい

英語を使うことで、異文化理解ができるようなワークショップを実施し国際交流につなげる

実施日が12月25日のクリスマスの日でもあるので、生徒も留学生もお菓子を食べながら、お祭りの気分で交流会を楽しみました。留学生の自己紹介に引き続き、3グループに分かれて、文化や趣味などについて英会話セッションを行いました。3回のローテーションで4名の多様なバックグランドの留学生全員と話すことができました。

交流会の終盤に代表の生徒2名が、ひとりはギターを弾き、もう1人は伴奏に合わせてクリスマスソングを歌いましたが、残り全員の生徒と留学生が自然に一体となってリズムに合わせて手拍子を打っていました。音楽に国境はありません。交流会の冒頭では、生徒と留学生双方とも緊張していましたが、交流が進むにつれ、リラックスしてきて、笑い声が絶えませんでした。

異文化理解においては、言語の壁は常につきまといますが、一生懸命、言葉を紡いでコミュニケーションしようと努力する、その姿勢の大切さを生徒たちは感じたことでしょう。

参加した生徒の感想

●完璧にしゃべれなくても、ちゃんと伝わって安心した。お互いの国の伝統について話してみて、新しく知ったことがたくさんあって、よかった！！優しい人たちばかりで、とても安心感があって、また機会があれば参加したいと思った！

●一度に色々な国の人と話せて楽しかった。国だけでなく、その「人」に目を向けると深い交流ができると気づいた。

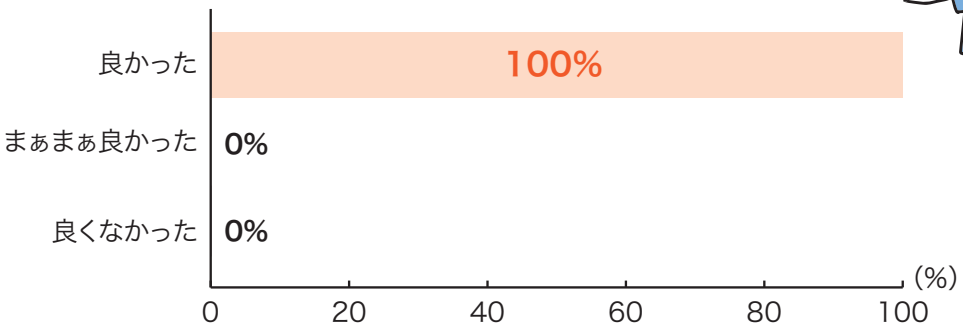
●英語のリスニングとは違い、アイコンタクトや身なり手ぶりをふくめたコミュニケーションはすごく楽しかった。

●もっと英語しゃべりたい。英語たのしい。

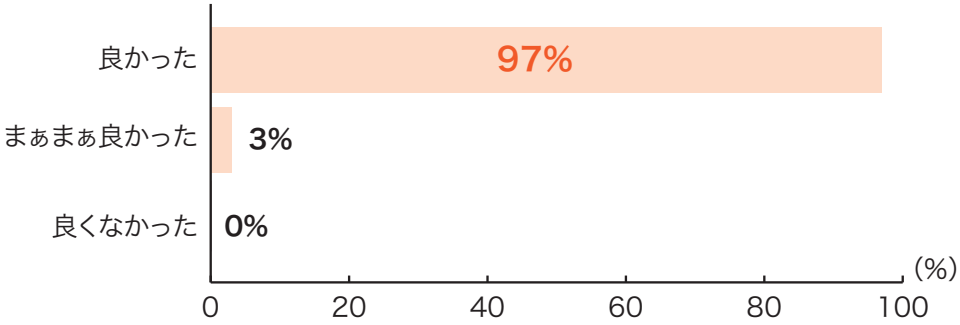
●言葉が分からなくても楽しく会話することができて良かったです。でも会話がスムーズにできないことがあって、とても悔しかったです。

先生方のアンケート結果

Q 事業全体



Q 講演／ワークショップ



Q 本事業申込の理由

校外のリソースを活用してより充実した内容としたかった …… 11

外部から講師を呼びたかったが予算がなかった …… 2

国際教育をテーマとした講演／ワークショップを実施したかったが、
内容・講師についての情報がなかった …… 5

（複数回答可）

先生方の感想（一部）

●この度は貴重なお話ありがとうございました。生徒にとって、大変有意義な学びの機会になりました。また、社会科をはじめ様々な教科の授業や教育活動の中でも、多文化共生社会の実現について生徒と考えて行きたいと思います。

●今回は、ご来校いただきましてありがとうございました。生徒たちが、ゆったりとした雰囲気の中、自由に英語を活用している姿を見て、教員として非常に嬉しく感じました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

●大変充実した講演会となりました。今後とも継続的にお願いしていきたいと考えております。

●大変素晴らしい機会を頂き感謝申し上げます。

●この度は、お忙しいところありがとうございました。おかげ様で生徒は楽しく英語を活用して多文化交流を行うことができました。今後もこのような授業展開が一緒にできたらと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

●この度は留学生を5人も派遣してくださり、ありがとうございました。生徒達はとても楽しかったようで、次の授業での振り返りの際に、当日知ったことを共有しておりました。来年も是非派遣をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これまでの実施校一覧

（派遣授業を実施している2009年度から2023年度までの実績／高校名は事業実施当時のもの）

■県立高校

愛川高校
麻生高校
麻生総合高校
厚木高校
綾瀬西高校
有馬高校
伊志田高校
磯子高校
岩戸高校
海老名高校
大楠高校
小田原高校
追浜高校
神奈川総合高校
神奈川総合産業高校
金沢総合高校
鎌倉高校
上鶴間高校
川崎高校
川崎北
川崎工科高等学校
川和高校
希望ケ丘高校
久里浜高校
港北高校
相模向陽館
相模原青陵高校
座間総合高校
七里ガ浜高校
松陽高校
城郷高校
住吉高校
逗葉高校
西湘高校
瀬谷西高校
相武台高校
大師高校
多摩高校
茅ケ崎高校
茅ケ崎西浜高校
津久井高校
鶴見総合高校
鶴嶺高校
永谷高校
新羽高校
白山高校
柏陽高校
橋本高校
氷取沢高校
ひばりが丘高校
平塚江南高校
平塚商業高校
平塚中等教育学校
藤沢総合高校
保土ヶ谷高校
三浦臨海高校
向の岡工業高校
元石川高校
弥栄高校
大和東高校
百合丘高校
横須賀大津高校
横須賀高校
横須賀南高校
横須賀明光高校
横浜旭陵高校
横浜国際高校
横浜栄高校
横浜翠嵐高校
横浜清陵総合高校
横浜立野高校
横浜平沼高校
横浜緑ヶ丘高校

（全日制、定時制校を含む）

■横浜市立

桜丘高校
東高校
みなと総合高校
南高校
横浜総合高校
横浜商業高等学校

■川崎市立

高津高校
橘高校

■横須賀市立

横須賀総合高校

■私立高校

アレセイア湘南高校
英理女子学院高等学校
慶應義塾高校
向上高等学校
相模女子大学高等部
シュタイナー学園
逗子開成高校
自修館中等教育学校
神奈川学園高校
クラーク記念国際高校
横浜キャンパス
橘学苑高校
森村学園高校
横浜国際女学院翠陵高校
横浜女学院高校
関東学院六浦中学校高等学校
横浜翠陵高等学校
横浜清風高等学校
横浜創学館高校
横浜隼人高校
横浜雙葉高校
横須賀学院高等学校

高校以外では神奈川県高等学校国際教育研究協議会主催のセミナー、教員研修などにも派遣した実績があります。

これまでの講師・ゲストの方々の繋がりのある国・地域一覧

アメリカ
イタリア
イラン
インドネシア
ウクライナ
ウズベキスタン
エジプト
オーストラリア
オランダ
ガーナ
カザフスタン
カタール
カナダ
カメルーン
韓国
カンボジア
コスタリカ
コロンビア
コンゴ民主共和国
シリア
シンガポール
スイス
スウェーデン
スーダン
スペイン
スリランカ
セネガル
タイ
台湾
中国
デンマーク
ドイツ
トルクメニスタン
ネパール
ノルウェー
バングラデシュ
フィリピン
フィンランド
ブラジル
フランス
ブルガリア
ベトナム
ペルー
ポルトガル
香港
マレーシア
ミャンマー
メキシコ
モンゴル
ルワンダ
ロシア

その他、韓国・朝鮮などに繋がりのある方、無国籍の方などもゲストとして高校生にお話ししてくださいました。

講師紹介

1

矢野（やの） デイビッド

（ミュージシャン、一般社団法人 Enije 代表、明星大学客員講師）

ガーナ出身。日本人の父とガーナ人の母との間に生まれ、ガーナで起きた暴動事件の影響により6歳から日本に移住。主な講演テーマは、国際交流、異文化共生など。

2

エソダ バスネット

（訳・通訳者、国際理解講師）

ネパール出身。留学生として2005年に来日。横浜国立大学・大学院で国際協力分野の博士課程単位を取得し、その後、国際理解、ジェンダー、キャリア教育や多文化共生などをテーマに高校や大学などにおいて日本語や英語で講演を多数行っている。

3

上條（かみじょう） 直美（なおみ）

（認定NPO法人開発教育協会(DEAR)理事、生涯学習コーディネーター）

大学生時代に国際協力と開発教育に出会い、ライフワークとする。青少年教育や開発教育の分野で仕事、ボランティア活動に長年携わる。開発教育協会では、教材開発やファシリテーター研修などに関わる。

4

星野（ほしの） ルネ

（漫画家／タレント／放送作家）

アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心にメディア方面でも個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見いだし、幅広い層を対象とした講演多数。

5

ビオリーナ ニコローバ

（マーケティングプランナー、異文化理解講師）

ヨーロッパ数か国に住んだ経験があり7か国語を操る。15歳で来日、高校と大学を卒業。日本の大手メーカーで8年間マーケティングに従事し、2019年に独立。現在は全国の地場産業マーケティングプランナーとして活躍中。

6

金（きん） 成東（そんどん）

（ワンダーファイ株式会社 事業開発ディレクター）

神奈川県生まれ。神奈川朝鮮中高級学校、横浜国立大学工学部卒。大手総合商社に7年間在籍し、インフラ建設案件に関わり約20ヶ国を訪れる。その後、「違うことが面白い」と思える教育を実践すべく、教育スタートアップにてアプリ開発に関わる。

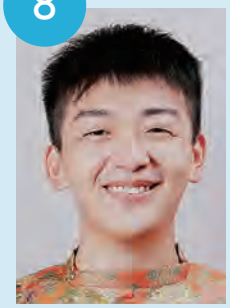
7

豊田（とよだ） らま

（早稲田大学 非常勤講師／東洋大学 客員研究員）

シリアのダマスカス出身。ダマスカス大学で土木工学を専攻、横浜国立大学大学院で修士号・博士号を取得。高校、大学やカルチャーセンターなどでアラビア語、イスラーム文化理解や在住外国人としてのご自身の経験などを講演形式で発信中。

8



佐々木（ささき） 聖嬰（せいしょう）

（The Lit Zone Beside(リットゾーン) 共同代表、自治体職員）

中国瀋陽市出身。中学校卒業後に来日。フリースクールに一年間通ったのち、高校、大学へと進学した。横浜市の公務員として勤務する傍ら、外国につながる子どもたちの進路や学習支援を行うThe Lit Zone Beside(リットゾーン)の共同代表として活躍中。

財団で講師をお願いした方々等のインタビュー動画を右のQRコードで読み取り、ご視聴いただけます。講師の派遣にあたっては、下記の方々に限定せず、プログラムの希望を踏まえて候補を探します。HPは「神奈川　高校派遣事業」で検索してください。

INTERVIEW

9

ファム ティ ビエン テュイ

（株式会社tPRESE 社長）

2006年に留学生として初来日。東京工業大学・大学院で経営工学を専攻。修了後日本企業に勤務し、3年後独立。外国人材を企業に紹介する会社を設立し社長に就任。日本とベトナムの架け橋としてベトナムの文化や言葉の理解促進に努めている。

10

喬禹（きょう） 翔（しょう）

（大学教員／元全日本中国人留学生学友会副会長 横浜地区会長）

中国に生まれ、中学校から日本語を習い始めて大学卒業後、日本の大学院への進学を決意して来日。大学院を卒業後、日本の良さを多くの中国の学生に伝えたいと思い、帰国して大学で教員を務める。現在、中日両国の若者が交流できる場づくりを目指している。

11

柳（りゅ） 晴（ちょん） 実（しる）

（NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター事務局長/第12期外国籍県民かながわ会議委員）

大阪生まれの在日朝鮮人3世。朝鮮学校卒業後、大阪の公立学校で「民族講師」を務め、国際理解教育・多文化共生教育に取り組んだ経験を持つ。現在は、かながわ外国人すまいサポートセンターで、神奈川県に住む外国人のすまいや生活をサポートしている。

12

オクサーナ・ピスクノーワ

（語学講師／ウクライナ避難民支援者）

ウクライナ・ドネツク州生まれ。1996年に来日。2014年ロシア軍によるクリミア・ドンバス侵攻後、遠く離れた日本から祖国ウクライナの文化を伝えるため、イベントや講演会などさまざまな活動を行っている。2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻後は、ウクライナの支援に奔走。現在、横浜市を拠点に避難民のサポートに尽力している。

13

萩原（はぎわら） カンナ

（NPO法人在日カンボジアコミュニティ／カンボジア難民出身）

内戦による強制労働政権の元で両親を亡くし、幼少期に親族と共に来日。日本で教育を受けた経験を活かし、在日カンボジア人の役所などでの行政通訳、技能実習生の通訳、日本語指導協力者としてサポートを行う。カンボジアと日本の架け橋になれるよう奮闘中。

14

漆原（うるしはら） 比呂志（ひろし）

（一般社団法人JLMM　事務局長／NPO法人アルペなんみんセンター 地域連携コーディネーター）

神奈川県生まれ。国際協力NGOのJLMMからカンボジアとベトナムに6年間派遣され、現在は事務局長として日本からの支援を行う。東日本大震災から現在の能登半島地震に至るまで、国内各地で起こる自然災害の発災直後からの被災者支援にも関わる。

15

赤阪（あかさか） むつみ

（認定NPO法人難民支援協会 渉外チームマネージャー）

大学院修了後、日本国際ボランティアセンター（JVC）のラオスにて森林保全担当として村の森を守るための支援活動を行う。帰国後、日本でのシュタイナー教育活動と学校法人化に参加。2014年より現NPOで、難民のための定住支援や政策提言活動を行う。

16

小波津（こはつ） ホセ

（NPO法人日本ペルー共生協会理事長／生鮮果実輸入商社営業部長）

ペルー共和国リマ市生まれ、8歳で初来日。ペルー人父、日系人母を両親にもち、幼少期から異なる空間・文化・言語の中で生活。来日後、日本語習得に苦労しながらも現在では日本のペルー人コミュニティを支援。また、生鮮果実の輸入を通じて日本と中南米社会の発展へ寄与。

国際交流・多文化共生などの
活動をしている

高校生のみなさんの活動をお手伝いします！

「外国人住民の方とコミュニケーションをとりたい」「地域で活動している多文化共生の団体について知りたい」など、
部活で活動するにあたっての情報提供や企画の立案など
相談に乗りますので、ご連絡お待ちしています。
高校生などを対象としたセミナー情報については、
こちらのインスタをフォロー！

お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人かながわ国際交流財団 高校派遣担当

住　所　〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター13階 多言語支援センターかながわ内

電　話　045-620-5045

E-mail　haken@kifjp.org

WEB　www.kifjp.org/student/highschool

財団本部事務所

住　所　〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39
湘南国際村センター内

電　話　046-855-1821